

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム 千鳥苑

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	〒028-3185 岩手県花巻市石鳥谷町大瀬川8-1-1		
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 21 年 12 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500031&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 21 年 9 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お風呂は温泉を使用し快適な入浴を勤めている。趣味の時間を思い思いに過ごしていただき、利用者を中心としたケアに務めている。昔ながらの季節の行事を欠かすことのないよう日々コミュニケーションを図り情報を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、既存の千鳥温泉施設をグループホームとして改修し、温泉付きの特徴あるホームである。ホームの利用者の暮らしを支えるなか、家族の意向のもとで今年度初めてターミナルケアに取り組み、医師との連携や、看護師等職員全員で関わりを持つなど利用者に満足していただけるよう取り組んでいる。またその経験を振り返るための勉強会を行い、看取り支援は、むしろ看取りのときだけのことでなく、日々の関わりが大事との認識を深めている。その他災害時における地域の協力や応援が得られるよう地域協力員のネットワークや避難訓練にも参加を得るなど支援体制が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 千鳥苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和顔愛護」の理念の精神で日々業務にあたっている。ホールに掲示し共有している。	「和顔愛護」の理念は「和顔愛語」に通じ、全職員が認知症を理解したうえ和やかな笑顔と優しい言葉がけ等により穏やかで尊厳ある生活を営むことができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	各種行事や避難訓練を通じて交流を図っている。緊急連絡網を作成し、協力していただいている。運動会、敬老会他、イベントに参加、年々声を掛けられる事が多くなっている。健康診断の場にも出掛けている。	近隣住民とは回覧板を廻したり、野菜をいただくなど日常的な交流のほか、祭り、運動会、敬老会などを通じて交流を図っている。今後はホームとして地域へ協力、貢献できる場面として、廃品回収などを考えている。	地域へ貢献するような取り組みについて準備を進めており、地域の人々との交流がさらに深まることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は介護年数に応じた研修を受け、認知症介護のレベルアップに心掛けている。地域貢献の準備はできている。職員は相談を受けた時は答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の問題点を取り上げるようにしている。その解決策に沿ったゲストを招待している。会議では事業計画、利用者状況、問題点を報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望をうけ、双方向的な会議になるよう努めている。	運営推進会議では、事業所の活動報告や、運営上の課題、対応策等が話し合われているほか、10月には市の歯科衛生士をゲストとして招き、口腔内対応のあり方について利用者、委員、職員の研修を予定している。	今回のようなゲストを迎えての研修会を、地域へ行事案内等することで、ホームや認知症に対する理解を含める機会づくりとして、またホームを知ってもらいきっかけに繋がるものと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	文書を提出時、可能な限り郵送ではなく、直接担当者に渡すように心掛けている。運営会議、入居者受け入れ時、検診を通じて関わっている。市町村担当窓口に対して、空ベットの相談やケアサービスの取り組みのアドバイスを受け折に触れ相談している。	市の健康診断を通して利用者の健康状態について保健師による相談支援を受けているほか、包括支援センターからも地域資源の利用に関する情報提供や指導をいただいている。今後更に協力関係を築いていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り時等で、ケアを振り返り、身体拘束に当てはまらないか、話し合う事もある。全ての職員が、身体拘束をしないケアを理解し実践している。玄関にセンサーを設置している。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり一緒について行ったり、見守る等安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	言葉使いも含めて何が身体拘束になるのか、ミーティングなどで話し合っている。親近感を込めた土地の言葉でも、利用者の気分を損ねないような会話の在り方など、職員との良好な関係を築きながら制限のない暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の中には、暴力的行為だけでなく、暴言や無視、必要なケアの放棄が含まれている。職員の疲労やストレスが蓄積しないようお互いに助けあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けると権利擁護に関して説明を受けているが、常に学ぶ機会を得る努力をして、利用者が必要な時は相談に乗れるように知識を蓄えている。現在の利用者はいない。職員には勉強する機会を持とうと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に担当職員とケアマネージャーにて面接を行いご家族や、ご本人に来院していただいた時説明を行い理解、納得していただいている。退所時も理解、納得している。介護報酬の改定や制度改正等も連絡し十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し立ての説明行なうとともに、投書箱や苦情処理委員会、運営推進委員会を通して、意見を反映している。ご家族には毎月の手紙や訪問時、問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	利用者の日々の様子を毎月、担当者がお手紙で家族に報告しているほか、家族等からも意見、要望などを聴くようにしている。なお、家族への報告内容を職員間で回覧し共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き、職員の意見を聞くようにしている。職員もどんどん意見を言っている。職員の要望や意見を聞くように心掛けているが、不満や苦情は言い難い部分もあるかもしれない。	月一回職員会議を行い、業務改善や利用者への接し方などの意見や提案を聞く機会を設けている。他にも昨年は年二回人事考課の人材育成に、職員が課題を掲げ面接助言を加えて共に向上を図る取り組みをしている。	運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことは、働く意欲の向上や質の確保につながるものと思われ、引き続きの取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成21年4月より人事考課制度を取り入れて、職員が向上心を持って働けるよう働きかかっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、他施設一日研修を計画している。年間に行なわれる外部研修の案内があった時は、職員の段階に応じてなるべく平等に受講できるようにしている。研修報告の場をもうけたり、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催のGH定例会へ参加し学習会や交流を持つ事により、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握する様努め、また、利用者本人の求めている事や不安を理解しようと工夫している。生活のなかで、職員が本人に受け入れられるような関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に「私の気持ちシート」を作成し家族と話し合いをしながら関係を深め、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要な援助につなげるようにしている。本人の言葉を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者へ教えてもらう場面が多い。また、そういった場面が多くもてるように工夫や声掛けに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に手紙を書き利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝える事で、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることがおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても今までの生活の延長線上であるよう、知人に訪問してもらうことや、電話での連絡を取り持つ等、つながりを継続するようにしている。昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、農地利用権を受ける者との関係の継続、お盆の墓参り等、援助、見守りをしている。	毎年、秋の収穫時期になると、馴染みの農家の方々が花や農産物等を持って訪問され、また出身大学からの会報、楽しみにしている馴染みの美容院の利用など、これまでの付き合いなどの関係を断ち切らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者の家族からボランティア受け入れの話をいただいたことがある。施設入所の利用者に面会して様子を伺ったり、家族に電話でお話することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケースカンファレンス、職員会議、日々の様子を通して、本人の気持ちをくみ上げている。日々に関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	月1回の職員会議や、3ヶ月ごとのカンファレンスで職員全員が一人ひとりの思いや意向について話し合っている。アセスメントには日本医療企画のアセスメント様式を活用し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の気持ちシート」や「介護計画書」を通じて現状の把握に努めている。本人のバックグラウンドを知るために本人、家族、兄弟などから情報を伝えてもらい、本人の全体像を知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活日誌を通し現状の把握に努めている。利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来苑時、希望やケアに就いての意見を聞きながら介護計画をたて援助を行なっている。本人や家族には日頃の係わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。身体状態の変化で見直しをおこなっている。	本人・家族の意見等のほか、全職員で話し合い介護計画を作成している。なお、利用者の状況は、3ヶ月ごとにモニタリングを行うほか、状態変化時もカンファレンスなどを繰り返しながら計画作成のうえ、家族から同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、排泄、身体状況、及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるように、申し送りで情報を共有してから業務に入る。各職員が担当を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族通院であるが都合の悪い時は、看護師が同行している。利用者の不足品があると家族の了解の下、買い物に出掛ける。地域の行事の誘いがあると利用者の意見のもと検討し出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の移動図書館車の巡回を待ち本を借りている。利用者の本を読む楽しみを思い起こしていただくよう行なっている。地区の体育祭、敬老会、健康診断等にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族通院である。入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。緊急時は家族の意見を聞いてから協力医療機関に通院する事がある。	医療受診は本人・家族の希望する主治医となっているが、通院は家族同行を原則としながらも、緊急時必要な場合は職員が通院支援にあたるなど柔軟な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等気づいた事があれば、ただちに看護師に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞う時間を作っている。また、家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	H21・3入居者のターミナルケアを初めて経験した。戸惑いもあったが看護師との連携で実施できたと思う。家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認をしながら取り組んでいる。	看取り対応を経験しており、その経験を活かしながら医療機関、職員、家族の連携のもとで今後も支援したいとしている。なお、振り返りの勉強会も行い、今後更に支援方法についてチームで話し合うこととしている。	重度化や終末期の対応については、今後ますます重要性を増すものと考えられることから、これまでの経験、ノウハウを活かし、支援されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接するケアハウスにAEDを設置している。消防署の指導で講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行なっている。その時は地域防災協力員にもお手伝いしていただいている。消火器や避難路の確保等の設備点検を行なうとともに非常用食料、備品を準備している。	隣接のケアハウスと共に夜間を想定した防災訓練をしている。地域の防災協力員がボランティアで協力して頂き、連絡網の整備や、AEDの使用など心肺蘇生法を習得するなど万が一の対応に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして、本人を傷つけてしまわないよう、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。	入浴や排泄、トイレ誘導等のさりげない声かけなど利用者の誇りやプライドを損ねないように配慮と対応をしている。また、個人情報に関する記録の取り扱いについても保管が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で決めたことを押し付ける様な事はせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日の調子を見ながら本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。職員の提案が通ることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の気温、気分に合わせて、洋服を一緒に考え、選んでいただいている。外出時は吟味するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事を摂っている。誕生日には好みの食事を用意するようにしている。口腔内の事情から刻み食の人が多く、形がわかるように目で見える機会をもっている。	一人ひとりの体調、食事の取り方に合わせて調理方法や、量、食器などに心遣いがみられる。食事準備や後片付けが習慣として自然に行われている。また、食後は、利用者の出身校の校歌やタンゴのリズムなどで和やかな雰囲気の間奏となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいるので、栄養バランスを考え、一人ひとりの体調にあわせた量を提供している。飲水量がどの程度取れているかおおよその量を職員全員が常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守り、出来ない方に関しては、食後援助をおこない、除菌の洗口液を使用中の利用者もいる。嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じて手を差し伸べているが、トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット類も本人にあわせて使用している。布パンツに戻った利用者もいる。排泄時間をチェックし、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより汚染を少なくし衛生面も保持される。	排泄時間をチェックし利用者の様子や時間を見計らってトイレ誘導して排泄の自立に向け支援している。失禁等が見られたときは、尊厳を損ねないように配慮し自然な介助に心掛け、きめ細やかに支援することで排泄の自立や汚染の減少につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行なっている。牛乳、ヨーグルト等で十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。腸の働きを良くするため散歩に誘っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉をアピールして入浴支援を行なっている。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等により一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。利用者は今のところ全員、見守りや介助を要するので一人入浴は不可能である。ゆっくり浸かりたい人には体調をみて満足した時間をあたえている。	「千鳥温泉」を利用した入浴はホームの特色の一つであり、入浴を拒否する時も、その理由を把握するとともに、声かけで足湯などから全身入浴につながる場合もあり、温泉の特徴を活かしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで昼寝したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているか確認をしている。薬の変更があった場合は、効能、副作用の説明を周知し状態観察をおこない記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや庭木の剪定、花の水やり、ゴミ出し、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作るようにしている。買い物やドライブ、地域の行事参加等、利用者や相談しながら行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	筋力低下防止や、生活習慣として毎日散歩にでかけている。季節を感じるような所の情報を得ると、急遽出掛けることもある。利用者の日常の会話から得られた情報を重視し出掛けることもある。衣替えシーズンの服の購入に職員と一緒に出掛けることもある。	利用者の体調、天候など考慮しながら、日常的に散歩や買い物に出かけるほか、本人の思いに沿った墓参りなどの個別の支援も行っている。また市内の他グループホームのフェスティバルに参加し楽しい交流の場となっている。	利用者の外出支援に地域のボランティアの協力を得られるよう運営推進会議等を通じて働きかけることも一考である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にお金の所持は認めていないが、例外的に一人だけ持っている。持つ事で安心し、買い物の支援をすることもある。トラブルにならないよう見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で希望があれば自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や作品作りを通して空間も明るくなり話題の中心になる事もある。天窓があり明るさを強調している。浴室は入居者の状態に対応し手摺を増設し安心できる入浴、介助を行なっている。玄関のガラス戸は飛散防止フレームを貼っている。	季節の花を生けてあり、またアケビなど秋の実や楽しい行事写真等が玄関に飾られ季節感、生活感が感じられる。小上がりの和室にはコタツがおかれ、横になって休むことができ、これからの寒いシーズンに備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり、輪投げ、パターゴルフ、カラオケを用意し行なったりして、思いおみに過ごされている。自室で過ごすのを好む入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に馴染みの物を持ってきていただき、居心地良くしている。七夕の短冊や誕生日カードなど、行事で作成した物を貼っている。ご家族持参の写真等も飾っている。	利用者が使い慣れたテーブルや座椅子や年代物のタンス、その上に仏壇を置くなど、本人の大事なものを身の周りにありその人なりの居心地良さをつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況にあわせ、手摺の増設、玄関の足場の見直しをおこない、一人ひとりの分る力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		